

育てたい。

「子供達の歌」は、作歌者と作曲者との、親しい會合の下に生れ出るものである。

謡はるべき歌としての歌詞は、なほ、詩としての氣品を失ひたくなく、曲譜も、また、ただに旋律の遊戯ではありたくない。歌詞の持つ、生命、韻律、香氣等、そのまま生きて旋律化し、曲譜の持つそれらも、同じく、生きて歌詞に発しなければなるまい。

「子供達の歌」には、純創作のほか、外国の歌曲をも合せ掲げる。それには、概ね、一つは常識としても知って置きたいもの、いま一つには、歌はるべくしていまだ歌はれない優れたものとを宛てる苦である。それらの歌詞も、春の曲に冬の薄れ日の歌をあてるやうなことは、つつしみたい。

何れにせよ、この「子供達の歌」の一つ一つが、子供達を歓ばせ、純真な子供達の口から、自づから歌ひだされ、ば、自分達の願は足りるのである。

鳩の笛社同人

外山国彦 小田島樹人
中山晋平 海野 厚

童 心

(曲水7-12)

ひとりごと

山芋、とろろ、唐辛子、

行燈の、灯が、消えさうだ。

山芋、とろろ、唐辛子、

行燈に、油を、さしてやれ。

山芋、とろろ、唐辛子、

行燈の、灯が、盞とろんだな。